

勝林寺寺報

後生の一大事

一人の男が、いまおそろしい毒矢に射貫かれたとする。

親戚や友人が集まって来て、急いでお医者さまをよび、この毒矢を抜いて、毒の手当をしようとした。

ところが、そのとき、この男が

「待つて待つて、しばらくこの毒矢を抜くのを待ってくれ。」というのは、一体だれがこの毒矢を射掛けたのか。それを調べねばなるまい。そいつはまた、男か女か。それも知りたい。あるいはその者の氏性もはつきりと知らねばならない。また、弓はなんであつたのか、大弓か小弓か、木の弓か竹の弓か。弦(つる)はなんであつたかも確かめねばならない。藤弦か動物の筋の弦か。また、この突き刺さっている矢は、籐でできている矢かそれとも葦でできている矢か。羽根はまた、雉のはねか鷹のはねか。とにかくそれらのことが、いちいちすつかり解明されるまでは、矢を抜くのは待て

ところで、いうまでもないことだが、その男、それらのことが分かつてしまわないうちに手当をすることである。

議論すべき人間が、お釈迦様によく議論をぶきかけてきた。宇宙は無限か有限か。魂はあるのかないのか。などなど。

お釈迦様はおっしゃる。議論のための議論はするでない。議論におぼれてはならない。そのような議論を「からまわりの空論」という。また、ひとり議論をたのしんでいるだけの「戯論(けりん)」ともいう。

いま、わたしたちには、老病死という恐ろしい毒矢がささっている。ひとり議論をたのしんでいるだけの「戯論(けりん)」ともいう。



神戸別院完成記念
慶讃講法要

に 参りして
総代 宮嶋 千秋

十一月のこよみ

一日	眼科検診
二日	横山 守氏宅法事
三日	出石お城まつり 山田昭二氏宅法事・山田まつえ
四日	数森好章氏宅法事・山田まつえ
五日	赤穂淨念寺報恩講法話 同じ
六日	教区運動計画起草委員会
七日	同様
八日	大田市真淨寺報恩講法話
九日	高福寺報恩講
十日	真淨寺報恩講
十一日	高福寺報恩講
十二日	法輪舎△春秋季子研修△
十三日	玉田会定例法座(福成寺)
十四日	中央実習打ち合わせ(本山)
十五日	西方寺報恩講
十六日	足立幸夫氏宅法事
十七日	本覚寺報恩講
十八日	福成寺報恩講
十九日	同じ
二十日	玉井克弥氏宅祥月
二十一日	野花教念寺報恩講法話
二十二日	勝林寺守寸報因法講
二十三日	勝林寺守寸報因法講
二十四日	正福寺報恩講
二十五日	久畠・佐田報恩講
二十六日	奥栗尾報恩講
二十七日	口栗尾報恩講
二十八日	玉井克弥氏宅祥月
二十九日	市場・日殿報恩講
三十日	東里報恩講
三十一日	森戸杉夫宅忌明法事

この別院から遠隔の地に住む私は、別院へはしげくお参りできなければども、わが寺勝林寺へ常時お参りを重ね、自分を照らし導いてくださるお念佛にお出会ひするくらしさせていただきたいものだと、あらためてひとり心に念じたことありました。

念願の新しい神戸別院(教化センター)が完成しました。しかもあの恐ろしい阪神淡路大震災を乗り越えて立派な姿をみることができました。いまさらながら念佛者御同朋の念力を感じずにはいられません。

十月十八日、記念慶讃ご親修法要が勤められ、勝林寺門徒を代表してわたしたち七人もお参りさせていただきました。

ご親修というのは、昨年わたしたちの勝林寺にご巡教くださった即ち門主さまが、直々にお勤めになるご法要です。わたしは、以前の別院には研修会などで度々お参りましたが、当時でさえ地元ではモダン寺と呼ばれているモダン感覚なお寺でしたが、この度の別院は、さらに豪華絢爛、そのうえ各種近代設備も充実して、全く目を見張るようございました。

ご法要は、厳かでしかもあたたかみあふれる雅楽演奏のなか、しかもご本山派遣のすばらしい司会アナウンサーの声がなごやかに響いて、次々行事が進められました。ご門主さま、いかにもご満足にお勤めされているように思われましたし、出仕のわが勝林寺ご住職のおすがたも一段と華やいで見えました。

この神戸は古くから海外へひらかれた町です。この別院も今後、お念佛の声を世界に向けて伝え広げる拠点になればと念じたことありました。

この別院から遠隔の地に住む私は、別院へはしげくお参りできなければども、わが寺勝林寺へ常時お参りを重ね、自分を照らし導いてくださるお念佛にお出会ひするくらしさせていただきたいものだと、あらためてひとり心に念じたことありました。

臓器移植
五十歳まえのご婦人から聞いた話です。

わたしの主人は、会社虫といふのか働き蜂といふのか、家のこと子供のこと、みんな私ませで、働きづめに働いて来ました人でした。それほど元気で体格もいい人でしたのに、ちょうど五十になつた年に発病し、まる三年、五十四の年に亡くなつてしましました。

めつたに難病で、どんな薬もなく、ただ、ある臓器を移植するしかないと、うものでした。臓器移植って、人さまの臓器をいただいて、それを我が身に植え付けるのですが、それにはいろいろな条件があるのだそうですね。年齢・性別・血液型・細胞のタイプなど、いろいろな条件が適合していないとダメなのだそうです。

病院の先生は、国内はもちろん、そのルートを通じて世界各国に臓器提供をしてくださる人を探しもとめてくださいました。

ドナー（臓器提供者）がでてきてくださいことを、ひたすら願つて待つそのつらさ。いいようがございませんでした。それを待つ間のつらさのなかで、わたしは鬼になつてしまつてきました。

いるはずなのに、どこかにキットいるはずなのに。なんで名乗り出てくれないのか。

人間みんなきょうだいじゃない。本当にそれで死ぬわけでもないのに。なんでそんなにエゴイステックなの。自分だけにかじりついて。

主人は臓器移植はさせないまま五十四歳で死んでしまいました。

ところが、亡くなるとすぐ、こんどは病院から献体のはなしがありました。

生前主人が自分から申し込んでいたのだそうです。「研究のために病院で遺体を使つてください」と。

それはなしを聞いたとき、わたしは気が動転してしまいました。

なんばなんでも、主人のからだがメスで切りきざまれるなんて。

自分が切り刻まれるより数倍のせつなさ。どうしてみようもない苦しみ。

そんなとき、どなたよりも一番エゴイステックな生き方をしている、ほんとうにあさましい私に気づかせてくれた、天の声がありました。

それはまず、「かあちゃん。みんなが、自分の都合だけで生きてたら、その自分さえ生きていけなくなるんだよ。と教えてくれたのはおかあちゃんじゃないか」と、言つてくれた高校二年になつたわが子がありました。

また次に、たしか、ふた七日のよるのご法話に、

「めいめいが自分の領分だけに立て籠もつた、限られたいのち、せまい考えにいきるのではないよ。思いもおよばぬかぎりない如来様のおよびごえをきいてごらん。それが『不可思議光』『無量寿如米』というお念佛、南無阿弥陀仏のおいわれ。」と、

ああこれは、このわたしめがけてのお呼び声だったんだわと、気づかせていたにいたのでした。

今年も出石組内十四ヶ寺から参加の百名が、十月4・5日の両日、ご本山で念佛奉仕をおこないました。第一日目は前一日に当たり、そのご法要に全員参拝いたしました。最後、体面所（こうの間）でのお茶接待。つづいての閉会式では永年奉仕参加の表彰が行われました。

☆二十一日は送迎バスを予定しています。代議員を通じ連絡いたします。

ちなみに明年の奉仕団は十月二・三日です。（納骨も同時に予定です）

どうぞ今からお心積もり下さい。



報恩講ご案内

十一月一一日

（六時）但東町のおとは

七時二〇分

八時

九時

十時

十一時

十二時

十三時

十四時

十五時

十六時

十七時

十八時

十九時

二十時

二十一時

二十二時

二十三時

二十四時

二十五時

二十六時

二十七時

二十八時

二十九時

三十時

三十一時

三十二時

三十三時

三十四時

三十五時

三十六時

三十七時

三十八時

三十九時

四十時

四十一時

四十二時

十二月一日以降
家庭報因講の日程

二月一日

二月二日

二月三日

二月四日

二月五日

二月六日

二月七日

二月八日

二月九日

二月十日

二月十一日

二月十二日

二月十三日

二月十四日

二月十五日

二月十六日

二月十七日

二月十八日

二月十九日

二月二十日

二月二十一日

二月二十二日

二月二十三日

二月二十四日

二月二十五日

二月二十六日

二月二十七日

二月二十八日

二月二十九日

二月三十日

二月三十一日

三月一日

三月二日

三月三日

法輪会秋の研修会

十一月十日（日）

（午後一時受付）

会場 内田 長良寺

講師 宗圓先生

会員はもちろん多数ご参加ください